1月のイベントカレンダー

日	曜	行事予定
1	土	休館日
2	日	休館日
3	月	休館日
4	火	仕事始め
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	休館日
11	火	13:30　日本語サロン
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	13:30 ｽﾎﾟｰﾂｻｰｸﾙ Uniship
16	日	休館日
17	月	休館日
18	火	13:30　日本語サロン JICA青年研修スタート～
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	10:00 地球ちょい旅「中国餃子作り」
24	月	休館日
25	火	13:30　日本語サロン
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	10:00　出張JICAデスク 13:30　情報紙発送作業
30	日	
31	月	休館日

書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン

はがきを書く機会の増える時期、お手元にご不要なはがきはありませんか？（公財）プラン・インターナショナルジャパンでは、書き間違いや余っているはがきの寄付を集めて、途上国の子どもたちを支援します。

当協会でも集めて一緒に送付しますので、ご自宅に書き損じはがき・未使用はがきがあって寄付をしたいは、個人情報をマジックなどで消したうえ、当協会までお持ちください。

主　催　　公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
締　切　　2月18日（金）

※プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない公正な社会を実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGOです。

This is Fukushima カレンダー

福島を世界へ発信する「This is Fukushima カレンダー」の令和4年版が完成しました。このプロジェクトは、福島の人々や景色の写真を通して、その美しさと復興の様子を世界中の人々に伝えることを目的にしています。震災後から、県内の英語講師の有志と多くの支援者の協力によって作成され、無料で配布されています。

当協会でも何部かいただきましたので、ご希望の方は取りに来てください。お電話でのお取り置きもできます。先着順です。

※当協会の国際交流員や会員さんの写真も使われています。中身をご覧になりたい方はお声がけください。

出張JICAデスク in会津

南米ボリビアで青年海外協力隊として活動していた笹尾 員統（かずのり）さんが月に一度、当協会で“出張JICAデスク”を開催します。JICAの活動や協力隊について、個別にお話をきくことができます。事前に来所の連絡をいただけるとスムーズに対応できます。

日　時　　1月29日（土）10:00～16:30
場　所　　当協会

情報紙発送ボランティア

情報紙の袋づめなどの簡単なボランティアです。予約は必要ありません。どなたでもお気軽にご参加ください。

日　時　　1月29日（土）13:30～　　場　所　　当協会

フォローしてね
AWIA_PHOTO

http://facebook.com/awiajp
イベントの最新情報をお届けします！

会津若松市
国際交流協会
〒965-0871
会津若松市栄町2-14
リオン・ドールガーデン5階
TEL：0242-27-3703
http://awia.jp
メール：mail@awia.jp

第307号 2022年1月

会津若松市国際交流協会 情報紙

FINE

Freedom/International/Necessity/Experience

ハローワールドクラブで小学生が絵付けしたジンジャークッキー。今にも踊りだしそう！

昨年中は会員の皆さまから、多くのご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。
当協会は**12月29日（水）から1月3日（月）まで**年末年始のため閉館いたします。
新年は**1月4日（火）から**平常通り（9:00～17:45）開館します。
2022年が皆さまにとって、明るく輝かしい年になりますように！

地球ちょい旅 中国編

皮から手作り！迎春☆餃子と香葱餅(シャンツォンピン)を作ろう

中国の春節に欠かせない料理、もちもち食感の“水餃子”を、皮から手作りしてみませんか？

春節（2月1日）直前となる今回の地球ちょい旅は、中国湖南省出身の周 茜娜(しゅう　あかねな)さんをお呼びして、**水餃子**と、**香葱餅（シャンツォンピン）の**作り方を教えていただきます。香葱餅とは小麦粉をこねてネギを入れ、薄く焼いた軽食で、中国では朝ごはんやおやつに食べるそうです。時間があれば、最後に交流タイムを設ける予定です。

日　時　　1月23日（日）　10:00～13:00
場　所　　會津稽古堂1階　クッキングスタジオ
講　師　　周 茜娜（しゅう あかねな）さん
メニュー　A 水餃子
　　餡：豚肉、韮、人参、白菜、椎茸
　　B 香葱餅（=葱入りフラットブレッド）
定　員　　16名（二人一組で行います）
　　※二人で申し込まれた方はそのペアで。
　　お一人で申し込まれた方は、こちらでペア組をします。
参加費　　会員800円　　会員外1,000円
持ち物　　エプロン、三角巾、麺棒（ある方）
申込み　　1月20日（木）まで当協会へ

新春キャプションコンテスト

新春！AWIAお笑い道場　面白いセリフ（＆説明）を考えて

★下の写真に面白いキャプションをつけてください

A：？

例：「えっへんおっほん！」

B：？

例：「風邪ですか？
はい、のど飴一年分」

応募方法
①メールやはがき、FAXで送る。件名「キャプションコンテスト」
mail@awia.jp
②協会のFacebookやインスタグラムの投稿“キャプションコンテスト”へのコメントする。
締切　1月21日（金）

選考方法
協会スタッフと広報係が選考し、一番面白い作品に賞品をプレゼントします。言語は日本語、英語、中国語のいずれかで。作品及び結果は2月号の情報紙やSNSで発表します。

★国際交流スポーツサークル Uniship（ユニシップ）ではメンバーを募集しています。詳しくは協会ホームページ(http://awia.jp)またはSNSへ。

笑顔がはじけた！AWIAボウリング交流会

12月12日(日)
AWIA CUP ボウリング大会

こんにちは事務局です

コロナが比較的落ち着いた12月12日、協会のボウリング大会を行いました。子どもから大人まで25名が参加し、久しぶりの交流会を楽しみました。ハイスコア賞に輝いた鈴木 紳さんのヒーローインタビューは、「I won！（勝ったよ！）」。機転の利いた一言にみんなが拍手を送りました。

始球式で投げてくれたのは、小学生の木村 環太くん。立派な一投でした！

「はじめまして」の方がたくさん来られました。今回参加できなかった方も、次回はお待ちしています。

高校生×AWIA

「いいですねぇ」「やります」「楽しみ！」が口癖の昆野 綾花さん。市の“グローバル人材育成事業”に参加したことがきっかけで、協会の会員になりました。英語を学んでいるのに実際に話す機会が少ないと感じていた綾花さん。「じゃあ、自分たちで話す場を作ろう！」と、全6回の高校生英会話サークルFINDを立ち上げました。学生会員の相田 咲希さん、松澤 奈々子さんも運営として参加しました。学校活動もある中での運営は、想像以上に大変だったことでしょう。彼女の情熱に多くのボランティアが協力し、たくさんの出会いと気づきがあった3カ月間が幕を閉じました。

高校生英会話サークル“FIND”を企画し運営した
昆野　綾花 さん
（会津学鳳高校2年）

「やりたい」を形に！私の“FIND”奮闘記
高校生英会話サークル“FIND”全6回（10月～12月）を終えて

今回、私は「高校生英会話サークル～FIND～」を企画し、計6回の活動を行いました。

FINDの名前は、Friends「友達」、Individuality「個性」、New「新しい」、Diversity「多様性」という4つの英単語の頭文字からできています。“同じビジョンを持つ仲間と出会い、お互いの個性を認め合いながら、新たな自分を発見し、更に磨きをかける”そんなことができるような、今までにない英会話サークルにできればいいなという思いを込めました。

“FIND”で一番大事にしたのは、話しやすい雰囲気を作ることです。自分が緊張して硬くならないように注意しました。また、みんなが楽しんで参加できるように、簡単な英語のゲームを準備しました。高校生だけでなく、留学生、タイやベトナム、バングラデシュの方、日本の方、そしてALT（英語講師）の方たちまでが参加してくれ、学校の英語とは違うリアルな会話を体験することができました。運営した私も、英会話の楽しさを改めて実感できました。参加した皆さんに、英語でしゃべるって楽しい！と少しでも思っていただけたなら嬉しく思います。

FINDの運営をやってみて、授業を行う先生方の苦労もわかりました。私は毎回、事前に活動内容や時間配分を考えていたのですが、予定通りに行うことは難しく、ボランティアの英語講師の方たちに助けてもらったこともありました。彼らには本当に感謝しています。イベントを主催する方法についても学ぶことができました。国際交流協会のスタッフやボランティアの方々など、たくさんの人の支えがあって、このサークル活動を最後までやり遂げることができたと思っています。私にとっては学びの多い3か月間でした。

FINDで出会った方たちとは、FINDを立ち上げなければ出会えなかったかもしれないと思うと、人との出会いって素敵だなぁと思います。これからも、一つ一つの出会いを大切にしていきたいです。みなさん、本当にありがとうございました！

毎回10人ほどが参加しました

インタビュー

Hitesh Toor
ヒテーシュ トゥールさん

ロンドンのインド人家庭に生まれ、ガーナで育ったヒテーシュさん。会津で英語講師として働いてほぼ3年になります。紫色のかっこいいロードバイクで街中を走る姿に、見覚えがある方がいらっしゃるかもしれません。

仕事と自転車に乗る以外の時間は、写真撮影や音楽制作、Vlog（ブログの動画版）投稿をしていますが、最近は協会のボランティアでちょっと忙しい日々だとか。実は高校生サークル“FIND”や“外国語おはなしのへや”、これから始まるスポーツ交流サークルなど、たくさんの協会活動をお手伝いしていただいています。今回のインタビューでは、ガーナのことや会津でみつけた予想外の素敵な発見、そしてボランティア活動への思いについてお聞きしました。

ボランティアで広がるネットワーク 素敵な出会いが、「ほら、ここに！」

Q. ご出身はどちらですか？

私はロンドンで生まれましたが、生後1、2ヶ月で両親の出身地のインドに行きました。その後すぐに父がガーナで仕事を見つけたので、母と私もガーナに移り住みました。保育園から大学までをガーナで過ごしましたが、ときどきインドに帰りました。ですから、私はガーナとインドの両方の文化圏で育ちました。法的な意味での国籍、つまり私のパスポートはインドですが、育ったのはガーナです。どこが私の故郷なのか、よくわかりません。言葉では言い表せないのです。内面はインド人でもあり、ガーナ人でもありますが、外見上は純粋なインド人です。だから、インド人の集団に完全に溶け込むことはできないし、ガーナ人の中に完全に溶け込むこともできないのです。

Q. ガーナではどんな言葉を話していましたか？

共和国ガーナの主要言語は英語です。トウィ語とガ語という現地の言葉もあり、ガ語は沿岸部で使われイントネーションが荒いのが特徴です。広く話されているのはトウィ語です。私は両方話すことができます。学生時代にはピジン語も話しました。文化の寄せ集めの中で育ったので、私の英語はインド、ガーナ、イギリス、アメリカなどが混ざっています。日本に来てからは、日本の学校英語のカリキュラムに合わせるために、アメリカ寄りのアクセントに変わってきました。多様な文化に囲まれて育ったので、何にでもすぐに同化できるのです。

Q. 大学では何を勉強しましたか？

マーケティングを中心とした経営学を学びました。しかしこれは、私が本当にやりたかったことではありません。学位のために経営を勉強しましたが、私は本当は事業用操縦士、つまり、本気でパイロットになりたかったのです。でも、それにはお金がかかります。コロナウィルスのまん延後、航空業界はかなり複雑になってきていますし。

Q. どうして日本に来たのですか？

自分で何かをやりたかったのです。インド人は“家意識”が強いのですが、私はずっと“自分はインド人なのか？ガーナ人なのか？私は何者なのか？”というメンタリティーを持っていました。だから、自分の力だけで何かをやってみたかったし、そうすることで何が起こるのかを確かめたかったのです。実は“日本に来る”というアイディアは中学生の頃から持っていました。ある日ネットで、中卒でできる仕事を調べていたら、日本で英語を教える仕事があったのです。それで、「ああ、やってみようかな」と思いました。最近は大卒の学歴が必要となりましたが。このことは心の奥にずっとありました。本業を引退したら英語の先生になろうかな、とも思っていましたが、思いのほか早く英語の先生になってしまいましたね。

Q. 最近、協会のボランティアを立て続けにお願いしています。きっかけは何だったのでしょう？

ボランティアは完全にドミノ倒し式なんです。ある日、友人から「高校生の英会話サークルにボランティアとして参加しないか」と誘われて、「うーん、新しいことだし、やってみようかな」と。そこでAWIAのスタッフさんに会って、国際交流協会がどんなところかを知りました。その場で赤べこサロンのいわきバスツアーに誘われ、そのプロモーションビデオを作ったら、さらに多くの人、例えばこれから始まるAWIAのスポーツサークルのリーダーにも会い、私も運営側として参加することになりました。会津のような土地に住んでいると、出会いが増えるほどネットワークが広がっていく、そんな嬉しい面がありますね。忙しくなったけれど、今が会津に来て一番充実しているし、人と仲良くなって人生が面白くなってきたと感じています。

Q. 高校生サークル“FIND”に参加した感想は？

“FIND”は、高校生が新しいことをやろうとしていてすごいと思いました。英語を話したい学生がいるなら、ぜひ手伝いたいと思いました。それで、ALT（英語講師）の友人たちも誘いました。自分ができることで人助けができるのは嬉しいことです。“FIND”の参加者はみんな、「英語を話したい」と思っていたので、私たちも楽しかったです。

Q. 最後に、会津の好きなところを教えてください。

一番は自然が身近にあることです。都市環境が整っていながら、山に囲まれているのです。東山に登ってダムを越えると、そこが会津とは思えないような、まったく違う環境になります。自転車で山の中を走って猪苗代湖に行くこともできます。会津若松市と会津美里町を分ける阿賀川があり、広大な田んぼがあり、磐梯山があります。田舎も都市も山も、何でもあるんです！（映画館を除いて）。個人的には、この会津の地に降り立ったことを、本当にラッキーだと思っています。